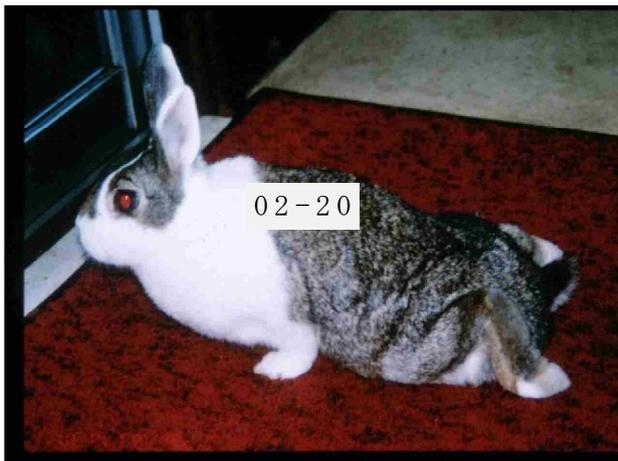


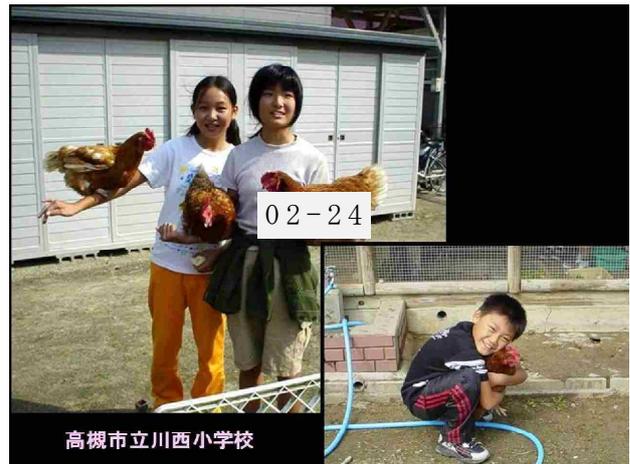
## 本当はこんな所で、生活している

- 兎は自然にいたら、いつでもきれいなところに寝て、尿のかかっていない餌をたべ、いつでも好きなところで寝そべることができる。けど、この兎は皆のためにここで暮らしている。
- でも外は危険だから<sup>02-19</sup> いけど、せめてしっかり掃除してあげて、気持ちよく暮らさせてね。
- それに朝は、皆も同じだろうけど、お腹がすいているから、必ず朝 餌や水を足してね。そして、お掃除の時に、しっかり水入れもこすって洗ってね。口の細菌が水入れに生えてぬるぬるしているから、きれいにね。



## 動物と仲良くなる方法

- 怖がらせない  
大声を出さない、そっと動く
- しゃがんで そろそろ近づけし出す
- チャボには、草<sup>02-23</sup>を刻んで与える。  
あるいはちぎりやすいように、ずっともっている。チャボたちは草や野菜が大きいと食べられない。  
じっとしていると、だんだんに安心して近づいてくるよ。



## 何していると思いますか？

- 初めて飼育をする子が、「兎がかわいくて」嬉しくて追い掛け回して捕まえたそうです。皆が兎の大きさだったら、追いかけてくる小学生はどのくらい<sup>02-21</sup>か想像してみてください。そう、巨<sup>02-21</sup>。
- 兎は怖かったので、逃げ回ったけど、それでもつかまった時 逃げようとして落ちて、背骨を折ってしまった写真です。子どもには遊びだったのに、兎はこれで死んでしまったんだよ。覚えておいてね。



## 動物から信頼されると

- ほら 楽しそうですね？
- 優しくすると、こうなるよ<sup>02-25</sup>
- じゃ、動物さんに、抱かせてもらうか



## 抱く時は、優しい気持ちで座って (正座の)膝に抱こう

- 胸の中には、何がある？大事な肺臓、心臓  
(肺臓はあまり強くだと 息ができなくなるよ)
- 心臓の音を聞い-02-27  
低学年だったら、大人、子ども、動物とピッチ  
の違いを聞かせる  
高学年だったら、15秒計って心拍数を比較さ  
せる 心臓の大きさはこぶし大、(終わり)

### (2) ふれあいタイム



今日は、保護者の参加はなく、東京都獣医会から近隣の動物病院の院長が18名支援してくれます。それぞれが10名で円陣を作った実習生の中心に入り、動物を手渡してくれますので、抱き方、またその他の質問などのやり取りをしてください。

なお、児童の足が少しでも痛さを感じると、動物を拒否するようになるため、バスタオルを二重にしてその上に動物を置く必要があります。また、動物からすると、人が恐怖で体を堅くしていると、それを感じ

取ってすぐに逃げ出しますので、優しい気持ちになって、筋肉を柔らかくして抱くように頑張ってください。

ふれあい授業の時に、動物を傷つけないように気をつけますが、獣医師の支援なしで行った学校で、

ウサギが骨折した事例があります。獣医師会に声をかけてみてください。

また飼育する場合の、飼育舎での世話やケージ飼いの注意点なども、その学校ごとの事情に合わせて考える必要がありますので、これも地域の獣医師会に相談してください。

下の写真はケージ飼いの時の様子をお知らせしているところです。



### 3 体験と言葉

東京都獣医師会と教育委員会は、毎年動物飼育作文コンクールを開催しています。表彰を受けた子どもたちの作品を冊子に毎年まとめています。審査委員長は本会の宮下会長、日置視学官も審査に参加して下さっていますが、数年前に特徴的な作文がありますので、ちょっと紹介させていただきます。4月から飼育活動をはじめて、10月に制限文字1600文字以内で書いてもらっています。

#### (1) 作文紹介

作文1は、越境入学が多い都内の小学校の飼育委員の作文です。この子たちは、全部600文字内外の作文を書きました。これは小論文としては、大変な文章力ですが、動物の正常の姿を知らないということと、知識だけからの言葉が並んでいるだけで、体験から出る自分の言葉がほとんどない、また、登場人物は自分だけで、見える光景を評論しているというところが特徴的でした。

## 作文1 移動動物園一日体験をしている学校の推薦作品

### ①「どうぶつ」 6年男子

昨日僕の学校に移動動物園が来ました。正直いって僕はマンションに住んでいるせいか動物とふれ合う機会がありません。「見る」ということはありますが「ふれ合う」といった事は幼稚園の移動動物園以来の気がします。僕は最近動物の病気がはやっているので動物にあまり近づきたくないと思っていました。しかし昨日短時間でしたが動物とふれ合うことになりました。そしてウサギをだこうしたりヒヨコを見たりしました。すると不思議なことに心がだんだんと和みヒヨコの目などの可愛らしさにひさしぶりに気付いたのです。このような事は時々あります。例えば祖父母の家に遊びに行った時そこで飼育している金魚を観察したり、えさをあげたりします。すると金魚の意外な一面(この金魚は目のあたりにほころのようなものがあるとか、腹を上にもむけて泳ぐなど)を発見し妙に親近感をもったりしてしまうのです。他にも学校で亀を飼っているのですが僕にはいつも同じ事をしている生き物にしか見えませんでした。しかし秋になり冬に近づくにつれて、まるで寒さをしのぐかのように、せっかくの箱庭風の石をかたむけ、その下にもぐりこむことが増えてきていることを発見し、「亀も亀なりにがんばっているなあ」と感じ亀が愛らしく見えてきました。

この様に動物は人間の心を豊かにしてくれると思います。また人間もそれを必要としていると思います。人間は科学の発展のためにずいぶん動植物を犠牲にしてきました。ですから動物が病気をもっていても犠牲にしてきた動物を今こそ科学の力で保護していくべきだと思います。

作文2は、年間の教育計画に沿って飼育活動がおこなわれている保谷第二小学校の4年生の作文です。飼育活動は、全員で行われる総合の学習の命の教育に位置づいて

います。なお、文中のチャボが死んだのは、6月ですが、この作文は10月になって書かれています。

## 作文2 ①悲しかったけど頑張った飼育 保谷第二小学校 4年男子

ぼくは、飼育をやり始めた時は、「飼育って、面白いかな」なんてことを考えていたり、「戦わせられるかなあ」なんてとんでもないことを考えていました。本当に最初のころは、「つつかれないかな」とか、思っていたもんだからうかつに餌もあげられなかったです。それに、まだそうじとかの細かいやり方も分からなかったから、むずしくてたまらなかったです。

そして、ぼくがだんだん慣れてきたころに、前から具合が悪かったチャボのシルフィーがたおれました。その時は国語の時間で、それを副校長先生が見つけたそうです。ぼくはその時、別の場所で別の事をしていて、池尾先生に教えてもらうまで全然気付かなくて、「えっ本当」という気持ちで教室に行きました。教室についてみると、みんなしいんとしていて、「シルフィーがんばれ」と応援したけど、シルフィーは息も少ししかしていなくて、今にも死にそうでした。でもぼくたちは、ただいのるしか出来なくてほかに何も出来なくて、とても悲しくて、きんちょうして、しかも歯がゆかったです。そして、夫のイエローを連れて来てもあまりこう果がなくて、ようやくじゅう医の先生が来て、お水を飲ませたり、砂とう水を飲ませたりしました。結局、じゅう医の先生が動物病院に連れて帰りました。その日は「シルフィーは大丈夫かな」と、考えていてなかなかねむれませんでした。次の日の朝ちょっと心配しながら学校に行った。そして二時間目あたりに副校長先生が、「シルフィーが元気になりましたよ」と、言いに来ました。ぼくはその言葉で思わず飛び上がりました。その時は心そこうれしかったです。その日中は、もううれしくてたまりませんでした。

でも、それから数日後、とても悲しいお知らせが入りました。なんとシルフィーの病気が悪化し、シルフィーが亡くなったのです。そのことを聞いた時は、悲しさのあまり、ただぼうぜんとしていて、約十秒後ぐらいにはっとしました。「シルフィーは苦しみにたえながら良くがんばった」とか、「なんでシルフィーは今までずっとがまんしたんだろう。そうか、ぼくたちや家族に希望をあたえてくれていたんだ。ありがとう」そんなことがぼくの脳をよぎります。そして、獣医さんは、「君たちのせいじゃないよ」と、言ってくれたのでとてもうれしかったです。そして、シルフィーがなっていた病気は人間の病気で言うと、はいがんだったそうです。ぼくはそんな病気にシルフィーはなっていたんだな、と思いました。そして、そのシルフィーのはいの写真を見ると、なんと白いできものが沢山できていて、はいの周りをおおっていました。そして、シルフィーのレントゲン写真を見てみるとほとんど空間がなくて、これじゃあ息をするのも大変だな、と思いました。そして、死んだシルフィーの胃ぶくろ辺りをさわると、何も入っていませんでした。多分だけど、息をするのでせい一杯でエサを食べるのも大変だったんだと思います。

今は、シルフィーやウサギのラバが亡くなった事もあり、エサの量や水の量、掃除の仕方や体調チェックに気を使っています。最初のころとくらべてはるかに動物達にもなれ、好きなエサなど分からなかった事が分かって来て、そしてそれを人に伝えられるようになりました。そして、何よりも変わったのが動物に対する気持ちです。最初はきょうみ本位でやっていたのが、今では「もう絶対これ以上他の子達をなくならせないぞ」とか、「責任を持ってやるぞ」という気持ちに変わっています。これからも飼育を頑張りたいです。

上の作文に出てきたシルフィーは、4年児童が3学期の終わりに「顔色が悪い」と先生に訴えて、先生は学校獣医師の病院に受診させたチャボです。診断は肺ガンで、2週間入院しましたが子どもたちに返して、「どうやって見送ってあげるか」を考えてもらいました。結局職員室にケージを置いて、子どもたちが朝晩世話をすることになりました。その後かなり生き延び、新4年が世話をしていましたが、とうとう6月に倒れてしまいました。私はもう諦め気分だったのですが、子どもたちは「何がやれる?」「何してあげられる?」と、じたばたしながら、去年携わった4年生を呼びに行ったりしました。それでもまだ落ち着かないので、家族に見せてあげようということになり、夫を連れてくることになりました。夫は、死にかけている妻を間近で見つめ、子どもたちが動いたりすると鋭い眼光でにらみつけました。それを見た子どもたちから「やっぱり夫だね〜」って、感嘆の声。このように、飼育活動は、如実に、愛情を教えてくれます。

シルフィーは、その10日後に死にましたが、子どもたちは、あれが悪くて死んだのか、など、あれこれ心配していました。私自身は、獣医師として生前診断を、実際に見て確かめたい気持ちがあり、子どもたちに問いかけたところ、「調べたい」と言うので、解剖しました。やはり肺ガンで、病巣を写真に撮って子どもたちにも見せました。体重は700gでしたが、ガンだけで100gありました。写真を見た子ども達は、「これじゃ生きられない」と納得したのか、黙って獣医師の話聞いていました。その後、子どもたちはシルフィーを抱いてお別れしたそうです。夕方に先生が埋葬用の箱に入れて病院に持って行きましたが、中には子どもたちの手紙がいっぱい入っていました。私は、子どもに内緒で手紙を開けさせてもらいましたが、「苦しいのに頑張ってありがとう」「思い出をありがとう」など、ほとんどの手紙に「ありがとう」と書いてありました。

このように丁寧な飼育活動は豊かな体験になり、豊かな言葉を生むことがわかります。作文の書き方の指導も大事ですが、なにより豊かな直接体験があってはじめて言葉が沸いてくると言えます。

## 4 さいごに

### (1) 弱いものへの気遣いの心

筑波大学附属小学校で、教室内でモルモットを飼育しているクラスがいくつかありますが、モルモットとふれあうときは、座って輪になってそっと床に置いて、友達同士譲り合いながら、動物に負担をかけないようにそっと抱き、観察します。これを、飼育経験がない隣のクラスに貸したとき、隣の子たちは抱きたくて、皆で、立ったまま奪い合ったそうです。つまり小さな動物を思いやる気遣いの神経が欠落しているということでしょう。保谷第二小学校の子どもたちは、4年生で全員飼育しますので、5~6年生は、皆しっとりと落ち着いて、人の話を良く吸収するように育てていると見えます。この乾燥は、昨年こられた校長先生、今年転勤なさってこられた副校長先生からも伺いました。それが、中学校に行くと、他校からの飼育経験のない子どもたちと一緒にになります。すると、経験あるなしで、体の使い方が違って見えると、青少年委員の方が言います。つまり、「飼育活動を体験した子どもたちは体の使い方が粗暴ではない」そうです。それは小学校で、乱暴に飼育舎の中を歩いたら動物たちが怖がるという体験をしているので、静かな、相手を思いやる対応が体に染みついたと考えられます。また、飼育経験を教員が指導的に関与して行うことで、適切な指導ができ、良い道德教育につながっているということだと思われます。

### (2) 必要な温血動物との交流体験

## 園・学校での動物教育の意義

- ・ 命の大切さを学ばせる・生命尊重 責任
  - ・ 愛する心の育成をはかる・情愛 自尊心
  - ・ 人を思いやる心を養う・共感 謙虚 協力
  - ・ 動物への興味を養う・科学への入り口
  - ・ ハブニングへの対応 02-31 生きる力  
ワガママノ 決断力
  - ・ マザーリング(擬似育児体験)・将来の子育て準備  
 (@ 以上は 愛情ある継続の効果)
- 
- ・ 緊張を緩める・癒し コミュニケーション促進
  - ・ 子どもの心の状態の指標・感性不足、ストレス、病氣

動物飼育の意義として、生命尊重の心を培うことが期待されていますが、飼育していても感情のつながりがなければ、その動物が死んだとき、悲しくも何ともないということになります。命の大切さや相手への思

いやりなど期待される飼育の効果は、すべてどのようにその子と動物の感情の交流を構築するかにあります。それで生活科では「継続飼育」が言われ、愛着を培うことが推奨されています。一時的な接触で得られることに、緊張を緩め、コミュニケーションを助けるというのがあります。が、動物園で動物を見ても獲られる効果で、思いやりや生命の大事さを理解するにはいたりません。

なお、動物飼育体験により、将来のための疑似育児体験もできます。1歳半の子どもでも、最初は動物の扱い方がわからないのですが、動物に反撃されて痛い目にあったりすると急速に扱い方（手ごころ）を覚えてきます。このようなことが体得できれば、将来、難なく自分の子どもも抱くことができます。現在では、はじめて生命体を抱いたのは、自分の子どもを抱いたときだった、というお母さんもたいへん多い状況です。この20年以上、子ども達は、動物と隔絶された環境で遊ぶため、子ども本来の動物への興味や愛着をゲームで埋めているということがあります。そのために命への理解や扱い方にいろいろな問題が出てきてしまったのではないかと考えています。

最後に、動物を扱う様子で、その子の心がわかると言われています。どうしても動物をいじめる子どもは、①動物を知らない場合、②自分のストレスの発散（虐待されている現れかもしれない）③発達障害があ

るとき、です。つまり「元気があまって、動物を乱暴に扱う」とは思わずに、なにか問題を抱えているのかなあ、と考える指標になるのです。

最後に最後お伝えしますが、これらの教育的な効果を得る事が出来る飼育動物種は、目を合わせて感情が読み取れる動物です。カブトムシを初めとする昆虫もは虫類も子どもの成長には欠かせませんが、お話した心の成長を目的とするなら、感情を見てとれるほ乳類、鳥類が重要です。これらがいれば、他の学校で良く見られる「は虫類や魚類」も合わせて、生物教育の基礎にもつながると考えます。人間に近いほ乳類や温血動物の鳥類はまた、自分自身を生物学的に理解するためにも重要な存在だと言えます。

最近では、学校で動物を飼育しないで「動物園で、ふれ合って終わり」という学校もあります。そうしたら、生物への正しい理解も、このような豊かな体験、そして思いやる心の構築はできないと言うことを忘れずに、指導者は意図して動物を子ども達に飼育させて、苦勞と喜びと、発見を与えて欲しいと思っています。

(全国学校飼育動物研究会事務局長／  
社)日本獣医師会学校飼育動物飼育支援  
対策委員会副委員長)

